
履修をはじめるにあたって

みなさんは、学則や履修規則に定められた卒業に必要な科目や単位、又は資格取得に必要な科目や単位を参照し、これから卒業するまでの履修を計画しながら、1~4年次の学期ごとに履修する科目を決定しなければなりません。

この『履修のてびき』は、みなさんが履修計画を立てるために必要な情報を掲載しています。

各学期始めに実施される学科のガイダンス等を通して、クラス担任の先生などと相談しながら、自らの責任のもとに自分自身のための履修計画を立てて学業に励んでください。

1. 履修計画を立てるにあたって

大学では、卒業に必要な履修科目と単位数、又は取得する資格などによって必要な履修科目と単位数などが定められています。しかし、それらをどのように履修するかは各人の選択にまかされています。つまり高校までとは異なり、定められた授業科目を履修するのではなく、一定の範囲内で自分の希望する科目を履修することができます。

本学では、1年次から教養科目だけでなく、学部・学科の専門科目のいくつかを選択できるようになっています。また、多くの科目は、半年で完結する構成となっていて、どの学年であっても多様な科目が履修できるよう配慮されています。

本学の卒業に必要な単位数は、各学部・学科とも124単位ですが、卒業に必要な単位の修得に十分努めたうえで、自分のめざす資格の取得にチャレンジすることも可能になっています。みなさんは、こうした仕組みを理解したうえで、自身の目標達成や興味、関心に基づいて、将来をしっかりと見通しながら、履修計画を立ててください。

なお、単位の修得については、ガイダンスでの説明をよく聞くとともに、クラス担任や学科の先生にも相談してください。そのうえで、在学4年間という時間を有効に活用できるような自分のための履修計画をしっかりと立ててください。不明な点があれば、遠慮なくクラス担任や学科の先生、学生相談室、事務局教務課（以下「教務課」）に相談してください。

2. 基本的な生活習慣の確立

大学での生活は、これまでの学校生活と比較して自由度や選択の幅が広がります。例えば、服装の自由から始まって通学方法の自由、アルバイトの自由など一般生活の面を数えあげれば限りがありません。それに加えて学習面においては、選択できる科目が多いこと、自由時間を利用して自分なりの学習や研究によって自己実現の道が開かれていることなどがあります。これは大学が学生一人ひとりを自立した人格として認めているからです。

しかし、自由だからといって基本的な生活のマナーを守ることを忘れないでください。勝手気ままなことをしたり、規則や約束を破ったり、他人に迷惑をかけるようなことをすると、たちまち大学は、楽しい学問と自由な生活の場ではなくなります。また、教育・学習・研究等を妨害する行為は、学則により懲戒処分の対象になります。

自由で自主的な生活、楽しい学園生活を謳歌し、学習や研究を充実させて自己実現を目指すためには、みなさんが常識のある人間であるとともに、今までの生活の中で、すでに身につけているはずの基本的な生活習慣に、大学生活の新しい習慣として次の4つのことをプラスしてください。

① 登下校の際に必ず掲示板を見ること。

大学では、みなさんへのすべての連絡は掲示、ホームページ、学科によってはHR等によってなされます。

掲示は、学生生活関係、各学科関係、キャリアデザイン関係、そして教務関係などと多様ですが、これが連絡や情報伝達の重要な場となります。例えば休講・補講・集中講義の日程、教室変更、試験及びレポート提出の日程などは教務関係の掲示です。「掲示を見なかったから」と弁解してもそれは通用しません。大学はみなさんが掲示を見たものとして授業や行事を進めて行かなければ、日常のスムーズな運営が滞ってしまうからです。したがって大学へ来たら、必ず掲示板を見る習慣を身に付けることが大切です。

また、みなさんの便宜を図るために、掲示板での情報の主要な事項、伝達事項などについてはホームページでも掲載されています。

② 約束を守ること。

卒業に必要な単位は学則で定められています。1単位不足しても卒業することはできません。この大事な単位を修得するためには、出席回数、試験を受けること、レポートの提出などいろいろな約束事があります。提出物は期限までに出さないと受理されず、単位が修得できないなど大きな代償を払うことになります。「忘れていた」「知らなかった」「なんとかなるだろう」は通用しません。

約束を守るためには、約束事（規則）の知識・情報をたえず確認するとともに、掲示板を見る必要があります。分からないことについては、まずクラス担任の先生に相談してください。

③ 届け出はすみやかに。

みなさんは大学での生活の中で、いろいろな「届け出」が必要です。例えば学籍に関すること、授業の欠席届、追試験、資格取得の手続き、また留学の手続きなどいろいろあります。これらの届け出は、時間と期限に余裕をもって行ってください。時間や期限にわずかでも遅れてしまうと手続きができないなど大きな代償を払うことになります。常に「届け出」は速やかに提出することを心がけてください。

特に学外実習など外部機関と関係の深い事柄については、相手先との連絡に相当の時間を要することもあります。何事も、時間や期限ぎりぎりの手続きはやめにして、「5分前の精神」すなわち「いつも時間に余裕をもって」行動しましょう。

④ 授業等で提出するレポートは写しを取って、必要な控えは受け取って保管するように。

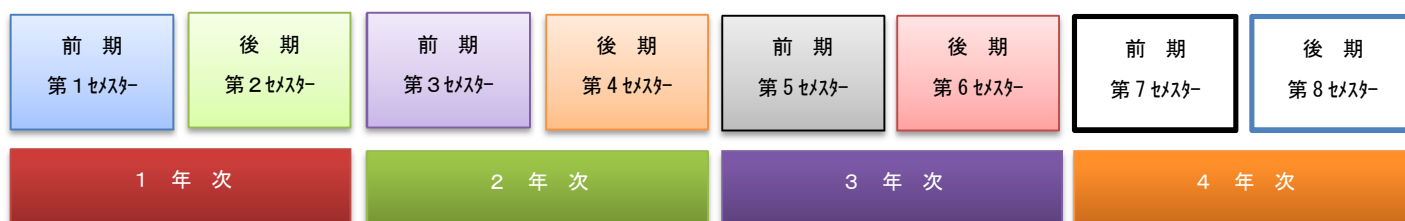
大学生活においては、重要な書類には必ず控えが渡されます。また、授業で提出するレポートや外部の機関から受け取った重要書類などは写しを取って各自で保管するように心がけてください。

3. 学年とセメスター制

本学では、一つの学年を前期と後期に分け、学期（一つのセメスター）ごとに単位を修得し、8セメスター（4年間）を積み重ねて卒業要件を満たす、セメスター制をとっています。

また、授業科目については、履修上「年次」を用いて配当しています。

「年次」は、単純に入学年度からの年数をカウントし、休学期間や修得単位数を考慮しません。これらの関係を図に示すと次のようになります。



※ 休学等により在学しない期間は、年次は進みますがセメスターは進みません。

その年次に単位を修得しなければ上級年次に進級できないということはありません。

4. 授業科目と単位制

1. 授業科目

私立大学には、その大学独自の教育理念があります。本学ではその学修として「基礎ゼミナールⅠ」を開講し、創設者の建学の理想を実現するための教育活動が行われています。

この「基礎ゼミナールⅠ」を基盤として、学則その他の諸規程を制定し、これらに則ってそれぞれの学科は教育目的を定め、特色ある教育活動を行っています。

また、本学では、学生が専門分野の知識や幅広い教養を卒業までに効果的に身につけることができるように、様々な授業科目を開講しており、授業科目を段階的・系統的に分類・整理した教育課程（カリキュラム）を作成しています。

本学では、4年以上在学して、授業科目を124単位以上修得することによって卒業することができます。

ただし、124単位のうちに、学科の定めた履修方法に従って単位を修得しなければなりません。

教育課程及び各学科の履修方法は、学則の教育課程やこの『履修のてびき』で確認してください。『履修のてびき』には、教育課程の内容として、各学科の開講科目一覧のほか、教養科目や専門科目といった科目区分、必修科目や選択科目といった科目分類、履修学年や授業が行われる開講期などが記載されています。

2. 単位制度

大学における学修は、単位制で行われています。

〔単位制〕

単位制とは、修業年限（最低4年間）中に、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

〔単位とは〕

すべての授業科目に、単位数を設定しています。

単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で表したものです。

本学では、授業時間だけでなく、事前・事後学習等教室外での自主学習も含めた45時間の学修時間を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算されています。事前・事後学習の内容については必ずシラバスで確認してください。

5. 履修計画

大学における学修の特徴は、自ら学びたい科目を多くの授業科目から選択し、決定することにあります。科目選択にあたっては、大学での4年間で何を学ぶのか、しっかりと履修計画を立てることが大切なステップです。

履修計画の作成にあたっては、履修のてびきやシラバスのほか、学科で実施されるオリエンテーションや履修計画相談への参加で得られる情報が参考になります。必ず出席し、学科のカリキュラムの特徴を理解したうえで、次の履修登録に進んでください。

〔履修とは〕

大学での学修では、「履修」ということばが頻繁に使われます。

履修とは、「科目の選択」→「科目の登録」→「授業の受講」→「試験の受験」→「単位を修得」という一連の流れを指します。

〔時間割〕

本学では、在学期間を通じて段階的・系統的な学修が適当な学修量をもって行われるように、学科・学年・クラスごとに時間割を作成しています。履修したい科目を選択するにあたっては、自分のクラスの標準時間割に従うことを基本としてください。